

異次元の感性

▶ 2023. 12. 22 (金)

A : 「あっついご飯の上にね、バターをたっぷりと乗せるの。」

B : 「うん、
なにがはじまるのかな、わくわく…」

A : 「米とバターをいっしょにね、
ぱくっと口の中に放り込むの。」

B : 「うん、それで、それで…」

A : 「白米の清純な味とバターのしつこい味がコラボして
実に幸福感が口のなかにじわ〜っと広がるの。
生きててよかった、と思える瞬間だよ。」

B : 「う〜ん、
幸せにしてくれる食べ物かあ〜
あたしにも、少し食べさせてくれる？」

A : 「いいよ。
ほれ！」

B : 「ぱくっ！
う〜っ…
きもち、わり〜い」

A : 「あなた、ねえ、
いつも、こんなもん、食べてるの？」

B : 「っっ…」

生徒A子 : 「パンにねえ、バター塗って、その上に砂糖を載せて食べると…
超おいしいよっ！」

B : 「うん、わかる、わかる！」

生徒A子 : 「だからね、あっついごはんにね、バターをまぶしてから、砂糖をか
けて食べると、これも超おいしいんだよ。」

B : 「…う〜ん！
ごはんとバターと砂糖ですかあ…
異次元の感性ですねえ…」

生徒A子 : 「ごはんがいやなら…
あっついそばでもいいよ！」

B : 「そばとバターと砂糖ですかあ…
聞いただけで、きもちわるいわ…」

生徒A子 : 「ふん！」

じゃんじゃん！